

コロナ禍における中国のソーシャルワーク を踏まえた実習教育

郭 娟・金 潔

I. 新型コロナウイルス感染症の予防・管理期間における実習の実施に関する指導意見

2020年初めに、中国政府は新型コロナウイルスのパンデミックの予防と制御のための措置を正式に発動した。

このような状況の中、中国教育部職業教育・成人教育司は、2020年1月31日に「新型コロナウイルス感染症の予防と制御期間における学生の実習・トレーニングの管理に関する通知」を発出した。そのなかでは、各種実習の制限、リスクアセスメントの実施、地域の状況に応じて実習の実施をコントロールするとともに、学生の心理カウンセリングの実施等についての基本方針が示された。

また、全国ソーシャルワーク専攻学位教育教學指導委員会においては、2020年4月19日に「コロナ禍における弾力的な修士課程のソーシャルワーク実習の運営に関する通知」を発出した。具体的な方法が以下の4つである。

- ①大学院生は教員主導の対面またはオンラインによる新型コロナウイルス感染症の予防・管理に関するソーシャルサービス、ボランティア活動、オンラインによる調査研究、資料収集、文章作成、PR活動等に参加すること。
- ②大学院生は自ら積極的に地元政府部門、企業や機関、社会組織、コミュニティによる新型

コロナウイルス感染症の予防・管理に関するソーシャルサービス、ボランティア活動に参加すること。

- ③大学院生は居住地のニーズに応じて主体的にソーシャルサービスの策定並びに展開、ボランティア活動の参加、ソーシャルワークの実践例の作成および報告すること。
- ④大学院生は各地域の状況に応じてソーシャルワーク活動の実施またはボランティア活動に参加すること。

この2つの通知では、社会福祉士の養成を行う会員校においては、4つの具体的な方法を踏まえ、実習プログラムを創意工夫し、実施することを強調した。特に、会員校の指導教員によりスーパービジョン、実習記録・実習報告書の作成、相当の実習時間数の確保などが例示された。

II. コロナ禍における中国ソーシャルワーク教育界の活動

1. 中国ソーシャルワーク教育連盟

中国ソーシャルワーク教育連盟は迅速にコロナ禍対応ワーキンググループを編成し、「ソーシャルワークサービスガイドライン」を作成し、「オンラインソーシャルワーク講座」を実施した。ソーシャルワーカーや専門家から構成されたスーパーバイザーチームは、最前線の武漢にいるソーシャルワーカーのためにオンラインスーパービジョンを実施し、専門的支援が必要なソーシャルワーカーたちのサポートを行った。

さらに、コロナ禍による制限の下で、ソーシャ

ルワークの展開はどうしたらいいのか、オンライン講座で第一線にいるソーシャルワーカーをサポートした。

2. 上海市ソーシャルワーカー協会

上海市ソーシャルワーカー協会は、ソーシャルワークサービスなど各種冊子の作成、オンラインボランティア募集サイトの開設、コロナ禍で活躍する専門家とソーシャルワーカーに代わって特色ある機関・施設へのインタビューを実施した。さらに、ベテランソーシャルワーカーや大学教員などから構成されたオンラインサポートチームを組織し、患者と隔離者また彼らの家族、不安な状態にいる人、社会的弱者、貧困家庭等のサポートを行った。

3. 全国各地のソーシャルサービス

全国各地の支援拠点（検疫所等）では、教員学生によるボランティア活動、心理的サポート、適切な感染予防教育、物品運搬、体温測定等が行われた。

また、華東師範大学ソーシャルワーカー公式アカウントサイト、復旦大学社会福祉学科卒業生サイトをはじめ、社会福祉施設や機関、個人も積極的に最新の情報を収集、整理し、情報提供を行った。オンラインサービスの内容は、心理的サポート、健康教育、物資調達等が挙げられる。

4. 武漢のソーシャルサービス

ロックダウン措置を実施していた武漢では、発案者である武漢大学の郁先生の「ソーシャルワーカー協働型オンライン寄り添う『武漢大学（3＋2）モデル』」が実践された。これは3名のボランティア（医療ボランティア、心理ボランティア、グループアシスタント）と2名のソーシャルワーカー2名（コミュニティソーシャルワーカー、ソーシャルワーカー）を1チームとして、ICTを用いて、地域住民に身体面のケア、心理面のケア、社会的ケアを行った。

また、新型コロナウイルス専用病床（以下、隔

離施設）においては、医療従事者の負担軽減のため、ソーシャルワーカー、医療従事者、心理士、アシスタントの4人から構成された1チームによる「ソーシャルワーカー伴走型隔離施設サポート『4＋1モデル』」が実践された。

さらに、中国ソーシャルワーク教育連盟はスーパーバイザーを派遣し、ソーシャルワーカーの養成校、社会福祉機関・施設のソーシャルワーカーらと協働で、地域・部署・領域を超えた多領域横断型連携「百人『後援団』」を立ち上げた。後援団（支援団体）は、多様多種のソーシャルサービスを提供した（図1）

Ⅲ. A校のソーシャルワーク実習計画の制定過程および主な規定

2020年3月9日、本来なら授業が再開される日だが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、多くの学生は大学に戻ることにできず、従来通りの実習を行うことが困難であった。このような状況のなか、A校は全国ソーシャルワーク専攻学位教育指導委員会の通知（以下、通知）をガイドラインとし、学部生と大学院生の実習方法を検討する「実習対応ワーキンググループ（6名）」を立ち上げ、「A校ソーシャルワーク実習計画実施案」を作成した。同実習計画には、①実習先の認定、②正規の手順、実習ノートの提出、統一された評価、③スーパービジョン、④倫理と価値規範、⑤安全の保障、実習期間の保険の購入、の5つが規定された。

実習に際して実習生の安全を第一に考え、専門職養成実習の質の担保を大前提とした。そのうえで実習は学生の状況に応じた対面方式とオンライン方式を選択できることとなった。オンライン方式は、A校の実習先、または実習生が実施場所を自ら選定する。対面方式は実習生の居住地で実施することもできる。どの方式にしても、実習先としての条件が満たされなくてはならない。また、通知にも示されたように、ボランティア活動の内容が認められれば実習時間として換算することが

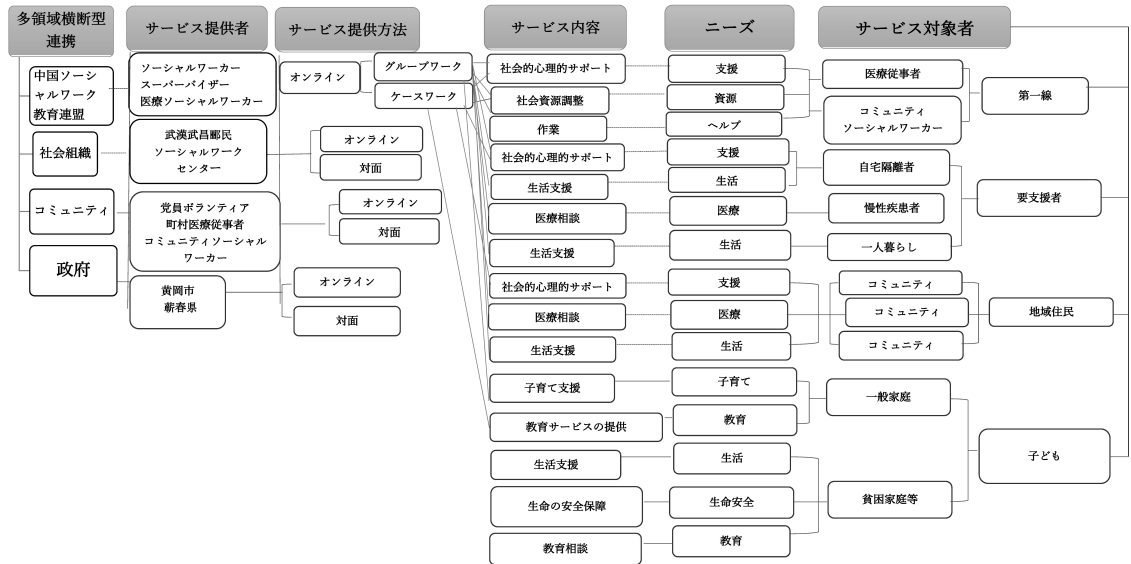


図1 俯瞰図

注: https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_6552640

できる。

実習対応ワーキンググループは、特に実習生たちに自分の強みをいかし、積極的にコミュニティ活動、家族支援、社会的弱者へのサービスに関わっていくように指導した。

IV. ソーシャルワーク実習指導の実習先およびオンライン実習事例

1. 実習生の状況、実習先、実習方法

2020年度には学部生11名、修士課程院生41名、計52名の実習生が全国17省市のNGO法人、病院、社会福祉機関・施設などで実習を行った（主な実習先はパワーポイント資料を参照）。実習生は実習を通して、教育者、情報提供者、協力者、心理カウンセラー、コミュニティ資源開発者、研究者等の役割を担った。

実習生全員にスーパーバイザーを付けており、スーパーバイザーは一对一で実習ノート、質疑応答の時間を設けていた。また、実習期間中は隔週でオンラインによるスーパービジョンを実施した。

実習先の環境適応やメンタルヘルス対策、実習ノートの書き方、オンライングループワークの進め方、オンライン実習の難しさなど実習生の状況に応じた指導を行った。

2. オンライン実習事例

(1) 貧困家庭の子どもを対象とした「オンラインサービス」、「オンライン学習支援」

2020年初め、上海閔行区呉涇拾星者ソーシャルワークセンター（以下、センター）は呉涇鎮青少年学習援助ボランティア活動計画に沿って、オンライン授業を受ける貧困家庭の子どものために、学習資料の印刷を無償で提供するとともに、感染予防の視点から自宅まで届けるサービスを実施した。A校の実習生はソーシャルワーカーとともに、コミュニティの担当者からサービスを必要とする家庭を把握したうえで、資料の印刷、送付作業を行った。

センターは海外にいる中国人留学生と協力し、小学生を対象とした「オンライン英会話」を実施した。また青年団委員会とも協力し、「オンライン

学習支援」学生援助活動を展開した。A校の実習生はソーシャルワーカーの指導の下で、付近の高校を活用するとともに、ネットで中国人留学生を募集し、英会話を学びたい小学生に繋ぎ、社会資源の調整を行った。「オンライン学習支援」においても、地域のニーズを把握し、社会資源の開発、調整を意欲的に取り組んでいた¹⁾。

(2)「伴走併走」心理社会的支援活動(2020年上海市におけるコロナ禍に立ち向かうソーシャルワークの優秀取り組み事例)

医療ソーシャルワーカーはA校の実習生の協力の下、患者の心理状態の評価、及びサポートを行った。実習生は心理サービスホットライン（専用のオンラインツール）を活用した。これによって患者の心理的ニーズの理解や、支援する機会が増えた。

医療ソーシャルワーカーとA校の実習生は「心理的ケアチーム」として、長期間に帰宅できない看護師などの医療従事者らにアートプラッター、泥人形などのリラクセーショングッズを提供し、ストレスフルな環境にいる医療従事者らをサポートし、ケアする人のケアを行った²⁾。

以上の2点は直接的な支援効果だけではなく、コロナ禍において業務が増え、感染や疲弊により困難が生じた医療従事者やソーシャルワーカーの専門職実践を可能ならしめるという効果もあった。

V. 振り返り

「全国ソーシャルワーク専攻学位教育教学指導委員会」の通知がソーシャルワーク実習のガイドラインとなり、実習の方向性が明確になった。

地域のニーズに応じて、社会資源を活用することはオンラインでも可能な実践であり、コロナ禍の実習でも実施することができた。

ただしコロナ禍における実習は多様なリスクがあり、実習生の安全を第一に考え、心理的フォロー、スーパービジョンを実施するとともに、実習の質の担保を念頭に置いた。

ソーシャルワークはソーシャルサービスを提供するとともに社会的責任を果たしていく。具体的に行えた実習は、前期に情報提供、情緒的サポート、中・後期にコミュニティサービス、対象者別サポート、グリーフケア、コロナ禍後に就職・復職支援、家庭支援、グリーフケアなどであった。

今回は緊急の状況であり、オンライン実習先のスーパーバイザーも対応に追われていた。A校の実習指導教員と実習先のスーパーバイザーの連絡が頻繁に取ることができず、オンライン実習プログラムも十分な準備期間がないなかで作ったため、振り返るとオンライン実習プログラムには改善できる点が散見された。今後は今回の実習プログラムを精査し、よりよいものに改善をしていきたい。

注

- 1) 上海閔行区呉涇拾星者ソーシャルワークセンター事務総長、華東師範大学ソーシャルワーク実習スーパーバイザー肖慶氏による情報提供。
- 2) 上海交通大学医学院附属第九人民医院ソーシャルワーカー、華東師範大学ソーシャルワーク実習スーパーバイザー孫振軍による情報提供。



コロナ禍における 中国のソーシャルワークを踏まえた実習教育

郭娟

華東師範大学社会発展学院社会福祉専攻修士課程センター副主任、
専門実習スーパーバイザー

juliet0828@163.com

1

目次:



- I. 新型コロナウイルス感染症の予防・管理期間における実習の実施に関する指導意見
- II. コロナ禍における中国ソーシャルワーク教育界の活動
- III. A校のソーシャルワーク実習計画の制定過程および主な規定
- IV. ソーシャルワーク実習指導の実習先およびオンライン実習事例
- V. 振り返り

2

I. 新型コロナウイルス感染症の予防・管理期間における実習の実施に関する指導意見

・教育部職業教育・成人教育司

2020年1月31日に「新型コロナウイルス感染症の予防・管理期間における学生の実習・トレーニングの運営管理に関する通知」を発出。

・全国ソーシャルワーク専攻学位教育教学指導委員会

2020年4月19日に「コロナ禍における弾力的な修士課程のソーシャルワーク実習の運営に関する通知」を発出。

4つの具体的な方法を踏まえ、実習プログラムを創意工夫し、実施する。養成校の指導教員によりスーパービジョンの実施、実習記録・実習報告書の作成、相当の実習時間数の確保などが例示された。

3

II. コロナ禍における中国ソーシャルワーク教育界の活動

1. 中国ソーシャルワーク教育連盟

- ・「ソーシャルワークサービスガイドライン」を作成
- ・「オンライン ソーシャルワーク講座」を実施(写真1)
- ・最前線の武漢にいるソーシャルワーカーのためにオンラインスーパービジョンを実施
- ・「コロナ禍による制限の下で、ソーシャルワークの展開はどうしたらいいのか」、オンライン講座で第一線にいるソーシャルワーカーをサポート

注：<https://baijiahao.baidu.com/s?id=1660110919897058094&wfr=spider&for=pc>



4

2. 上海市ソーシャルワーカー協会

- ソーシャルワークサービスなど各種冊子を作成(写真2)
- オンラインサポートチームを組織
- オンラインボランティア募集サイトを開設
- コロナ禍で活躍する専門家、ソーシャルワーカー、特色ある機関・施設へのインタビューを実施

写真2



5

3. 全国各地のソーシャルサービス

- 支援拠点（検疫所等）：教員学生によるボランティア活動、心理的サポート、適切な感染予防教育、物品運搬、体温測定等
- 情報提供：ECNU社工（華東師範大学ソーシャルワーカー）公式アカウントサイト（写真3）

復旦大学社会福祉学科卒業生サイト（写真4）

- オンラインサービス：心理的サポート、健康教育、物資調達等

写真4

副洞号 > 复旦青年

复旦社会工作系师生助力抗疫：他们在后方串起社会资源之线

2020-03-13 10:28 来源：澎湃新闻新闻号-洞号

洞号青年 > 洞号青年

原创 顾晨淳 复旦青年

2月伊始，一些复旦社会工作系的师生们以不同的形式参与到紧张的战“疫”工作中，或远程指导一线社工服务，或整合信息、链接资源，或录制网课、撰写专报，运用自己的专业知识为一线的社会工作者们提供协助。

写真3



6

4. 武漢のソーシャルサービス(オンライン、隔離施設)

・ソーシャルワーカー協働型オンライン寄り添う:「武漢大学(3+2)モデル」

「3+2」の「3」: ボランティア3名(医療ボランティア、心理ボランティア、グループアシスタント)

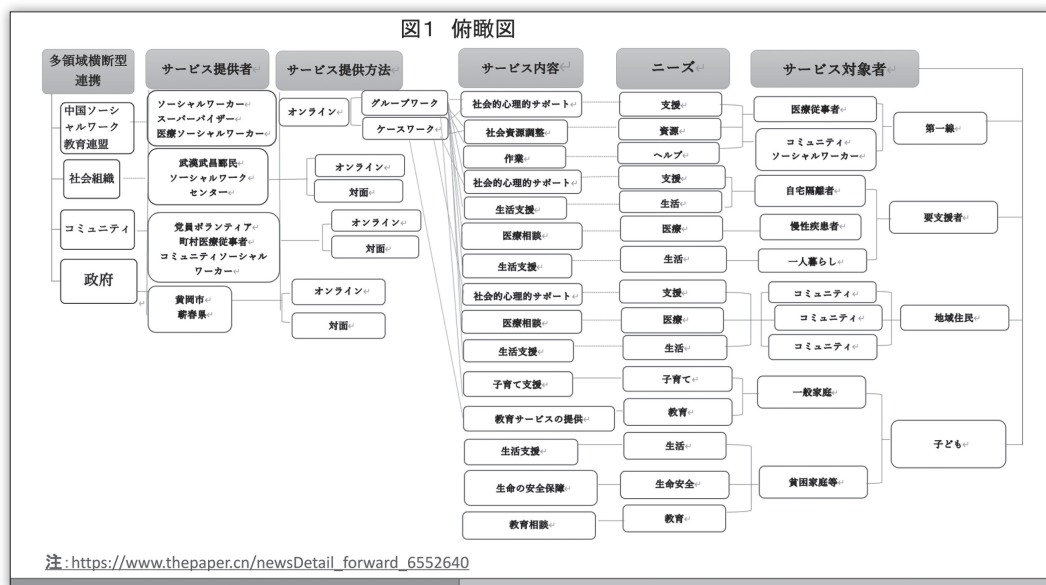
「3+2」の「2」: ソーシャルワーカー2名(コミュニティソーシャルワーカー、ソーシャルワーカー)

・ソーシャルワーカー伴走型隔離施設サポート:「4+1モデル」

「4+1」は、(ソーシャルワーカー、医療従事者、心理士、アシスタント)の4人1チームである。

・多領域横断型連携「百人『後援団(支援団体)』」(図1)

7



8

三. A校のソーシャルワーク実習計画の制定過程および主な規定

- 実習計画の制定過程(2020年)

前半:学生、実習先の状況把握

実習対応ワーキンググループ(6名)による検討

実習計画実施案を作成

- 実習計画の主な規定(5つの規定)



9

IV. ソーシャルワーク実習指導の実習先およびオンライン実習事例

1. 実習生の状況、実習先、実習方法(対面方式またはオンライン方式)

- 主なオンライン実習先である。

学生11名:NGO法人5カ所(青少年ソーシャルワーク実習、コミュニティソーシャルワーク実習)

児童病院2カ所(医療ソーシャルワーク実習)

精神衛生センター2カ所(精神保健ソーシャルワーク実習)

院生41名:NGO法人9カ所(青少年ソーシャルワーク実習)

NGO法人3カ所(コミュニティソーシャルワーク実習)

病院3カ所(医療ソーシャルワーク実習)

精神衛生センター2カ所(精神保健ソーシャルワーク実習)

社会組織センター5カ所(公益、ソーシャルワーク運営実習)

高齢者施設2カ所(高齢者ソーシャルワーク実習)



10

2. オンラインによるスーパービジョンの実施

・スーパービジョン内容（表1、計6回実施）

・実習生の質問を事前に集約し、担当教員がスーパービジョンの場で回答、指導を行う。

・実習期間中は、リアルタイムでも実習生のサポートを行う。

・スーパービジョンの内容を記録、ニュースレターを作成。

表1 スーパービジョン内容

時間	担当教員	スーパービジョン テーマ
2020年 6月1日	**	ケースワーク
2020年 6月15日	**	グループワーク他
2020年 7月1日	**	地域福祉他
2020年 7月15日	**	福祉行政財政他
2020年 8月3日	**	ソーシャルワーク研究 他
2020年 8月17日	**	ソーシャルワーク評価 他

11

3. オンライン実習事例

（1）貧困家庭の子どもを対象とした「オンラインサービス」、「オンライン学習支援」

・呉涇鎮青少年学習援助ボランティア活動計画

2020年初めから、オンライン授業を受ける貧困家庭の子どものために、上海閔行区呉涇拾星者ソーシャルワークセンター（以下、センター）は学習資料の印刷を無償で提供するとともに、感染予防の視点から自宅まで届けるサービスを実施した。

A校の実習生はソーシャルワーカーとともに、コミュニティの担当者からサービスを必要とする家庭を把握したうえで、資料の印刷、送付作業を行った。

・「オンライン学習支援」学生援助活動

センターは海外にいる中国人留学生と協力し、小学生を対象とした「オンライン英会話」を実施した。また青年団委員会とも協力し、「オンライン学習支援」学生援助活動を展開した。

A校の実習生はソーシャルワーカーの指導の下で、付近の高校を活用するとともに、ネットで中国人留学生を募集し、英会話を学びたい小学生に繋ぎ、社会資源の調整を行った。「オンライン学習支援」においても、地域のニーズを把握し、社会資源の開発、調整を意欲的に取り組んでいた。

注：上海閔行区呉涇拾星者ソーシャルワークセンター事務総長、華東師範大学ソーシャルワーク実習スーパーバイザー肖慶氏による情報提供

12

(2)「伴走併走」心理社会的支援活動(2020年上海市におけるコロナ禍に立ち向かうソーシャルワークの優秀取り組み事例)

・隔離された患者の心理的評価とオンラインサポート

医療ソーシャルワーカーはA校の実習生の協力の下、患者の心理状態の評価およびサポートを行った。実習生は心理サービスホットライン(専用のオンラインツール)を活用した。これによって患者の心理的ニーズの理解や、支援する機会が増えた。

・隔離病棟医療従事者の心理的サポート

医療ソーシャルワーカーとA校の実習生は「心理的ケアチーム」として、長期間に帰宅できない看護師などの医療従事者らにアートプラッター、泥人形などのリラクセーショングッズを提供し、ストレスフルな環境にいる医療従事者らをサポートし、ケアする人のケアを行った。

注:上海交通大学医学院附属第九人民医院ソーシャルワーカー、華東師範大学ソーシャルワーク実習スーパーバイザー孫振軍による情報提供

13

V. 振り返り



1. 「全国ソーシャルワーク専攻学位教育教学指導委員会」の通知がソーシャルワーク実習のガイドラインとなり、実習の方向性が明確になった。
2. 地域のニーズに応じて、社会資源を活用することはオンラインでも可能な実践であり、コロナ禍の実習でも実施することができた。
3. コロナ禍における実習は多様なリスクがあり、実習生の安全を第一に考え、心理的フォロー、スーパービジョンを実施するとともに、実習の質の担保を念頭に置いた。
4. ソーシャルワークはソーシャルサービスを提供するとともに社会的責任を果たしていく。具体的に行了た実習は、前期に情報提供、情緒的サポート、中・後期にコミュニティサービス、対象者別サポート、グリーフケア、コロナ禍後に就職・復職支援、家庭支援、グリーフケアなどであった。
5. 今回のオンライン実習プログラムは、十分な準備期間がないなかで作ったため、改善できる点が散見された。今後は今回の実習プログラムを精査し、よりよいものに改善をしていきたい。

14